

令和3年度第1回 新潟市美術館及び新潟市新津美術館協議会 議事録要旨

日 時 令和3年10月29日(金) 午後2時から4時

会 場 新潟市新津美術館 レクチャールーム

出席者

(委員) 会 長	中山 輝也	新潟県博物館協議会会長
	金山 喜昭	法政大学キャリアデザイン学部教授
	捧 実穂	雪梁舎美術館理事長
	佐藤 靖子	新潟市立西川中学校校長
	島 敦彦	国立国際美術館館長
	田中 咲子	新潟大学教育学部准教授
	塚田 美紀	世田谷美術館企画調整担当マネージャー
	三保 恵美子	茶道表千家教授

(事務局)	前山 裕司	新潟市美術館館長
	川瀬 正勝	同 副館長
	鈴木 力	同 総務係長
	荒井 直美	同 学芸係長(学芸員)
	菅沼 楓	同 学芸員
	松沢 寿重	新津美術館館長
	栢森 文夫	同 係長
	奥村 真名美	同 学芸員

次 第

- 1 部長挨拶 文化スポーツ部長 長浜 裕子
- 2 開会挨拶 新潟市美術館館長 前山 裕司
- 3 委員紹介(自己紹介)
- 4 議事
  - (1) 会長、副会長の選任
  - (2) 新潟市美術館・新津美術館 前年度事業報告
  - (3) 新潟市美術館・新津美術館 次年度事業計画
  - (4) その他
- 5 閉会挨拶 新津美術館館長 松沢 寿重

## 1 部長挨拶

(長浜部長)

今回、皆さん5期ということで、昨年度からの任期であるが、ご承知のとおり、新型コロナウイルス感染症が拡大した中で、なかなかお集まりいただけず、昨年度は文書をお送りする形で代えさせていただいた。任期2年目ではあるが、初顔合わせとなる。

さて、今日、東京からおいでの方の委員の方もおられるが、新潟駅の様子を見て、少し迷われたりしたのではないかと思う。今、駅の高架化の工事をしており、順調にいくと、来年6月には完了して、すべての在来線が高架ホームで乗り降りすることになる。その後には駅前広場の整備ということで、駅から萬代橋の手前の万代という地域、そして古町という軸を新潟の都心軸とし、その距離が約2キロということで、にいがた2km(キロ)と名づけ、この都心軸をエンジンとして活性化を図って、新潟市全体をよりよくしていこう、より活性化していこうという動きが始まっているところである。新潟市美術館について言えば、その都心軸のすぐ近くにあるということで、これから都心軸がエンジンとして大きく飛躍していこうという中で、美術館がどういう役割を果たせるのかというあたりは、これからの課題になってくると考えている。

本日は、昨年度の事業の実績、来年度の事業計画などを皆様にご説明申し上げて、また反省点、あるいは来年度以降に期待することなど、忌憚のないご意見を頂戴できればと思っている。

本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 2 開会挨拶

(前山館長)

世の中、Zoomの会議などがやけに増えていて、私はできるだけ拒否してきたが、拒否もできないような状況になり、大学の授業も学生と1年間、顔を合わせないで終わってしまうみたいなことがあって、これは間違っていると私は思っている。Zoomの会議でしゃべることと、対面の会議でしゃべることはやはり中身も違う。つつい遠慮してしゃべれないということもZoomの会議だとあるし、やはり顔を合わせるのが基本だろうと思う。ましてや美術館という場所は作品と対面する。現場の空間、つまり人と作品と空間があるという中で出会うというようなことが非常に重要だと考えている。

先ほど、年報を見ていただいた。これまで2館別々に年報を出していたが、今年初めて1冊にするという試みをやった。2館の一体的な運営ということで、一步を踏み出したというようなことで、今後、協力体制を図っていきたいと考えている。

今日は、ご審議のほど、よろしく願いいたします。

### 3 委員紹介（自己紹介）

出席委員が自己紹介。

### 4 議事

#### （1） 会長、副会長の選任

（各委員から特に意見等がなかったため）会長に中山輝也委員、副会長に佐藤靖子委員をとの提案が事務局からなされ、全会一致で承認された。

（中山会長）

この協議会は、新潟市美術館と新津美術館、この両館をよりよい方向にもっていくために立ち上げられたもので、今期は第5期に入ると思われるが、昨年度はコロナで開催出来なかった。ようやく開けてよかったと思っている。これから、皆様には意義ある会議となるように、運営にご協力していただきたいと思うし、また運営は市民本位であることをご理解の上、お願いしたいと思っている。よろしく願い致したい。

（佐藤副会長）

子どもたちがこれからも美術を楽しめるような、そのような美術館にしていだけたらと思う。ここにお集まりの皆様のさまざまなお立場から、またいろいろご意見いただいて、よりよい方向へ導いていだけたらと思う。どうぞよろしく願いいたします。

#### （2） 新潟市美術館・新津美術館 前年度事業報告

資料1、年報及びパワーポイントの画像に沿って、新潟市美術館の令和2年度の事業報告と参考に関和3年度事業について事務局より説明。

続いて、資料1、年報及びパワーポイントの画像に沿って、新津美術館の令和2年度の事業報告と参考に関和3年度事業について事務局より説明

（田中委員）

今年度から年報が2館一つになったということで、いろいろ2館の連携を随分、活性化させようとしていると理解した。具体的に今、事業報告ということでお話しいただいたので、例えば、展覧会のラインナップは、新潟市美術館と新津美術館でどのようにすみ分けしようと考えているか。

（前山館長）

これまで例えば、新津美術館だと子ども向けの企画が多いとか、そういうイメージがある。今年例外的に新潟市美術館のほうで「るろうに剣心展」をやったが、「これは新津美術館ではないのですか」というような問い合わせが随分入った。それくらい、新津美術館にはそういうイメージができあがっているということなので、その方向性はあまり崩さないで、例えば、駐車場の問題にしても、新津美術館のほうが車がたくさん止められる。新潟市美術館だとその問題がいつもついて回るといふこともあるので、大勢の人が来るような大型の展覧会は、できれば新津美術館でやりたいという感じがある。また、新潟市美術館くらいしか絵画や美術、いわば普通の美術をやるところがあまりないという話を聞いた。新潟市美術館は、基本を押さえるという意識でいなければいけないと思っている。ただ、そうは言っても、新潟の場合、どうしてもメディアと実行委員会を組むような展覧会が多いので、そうするとメディアの意向などもかかわってくる。資金がふんだんにあるといいが、そうもいかないで、理想と現実はやや違うという感じになるかとは思いますが、このすみ分けということ意識していく必要があると思っている。

今年から、両館の収蔵品を有効活用しようということで、今年度はお互いに展覧会の中で、新潟市美術館の「LOVE&LIFE展」、新津美術館の「秋葉区ゆかりの作家たち展」でお互いに収蔵品を融通しあって、展覧会に取り組んでいこうという試みを意識して始めている。

(島委員)

お聞きしたいのが、それぞれの館の所蔵している作品の特徴の違いみたいなものがどれくらいあるのかが一つと、例えば、新潟市、あるいは新潟県に在住の方で、作品をお持ちの方が新潟市に作品を寄贈したいと言った場合に、所蔵品をどちらが受けたほうがいいのかということ、お互いに相談されているのか。その辺りお聞かせ願えればと思う。

(松沢館長)

実は、厳密なすみ分けというものが、今まであまりできていなかった。と言うのは、この新津美術館というのが、かつて旧新津市立の美術館としてスタートしたときに、所蔵品は集めない美術館としてスタートしたが、今から10年ほど前に私の前任の横山前館長が就任して、やはり美術館というのは収集活動もきちんとやっていくべきだということで集め始めて、今、大体800点くらいとなった経緯がある。ただ、潤沢に予算があるというわけでもないで、購入した分に関して言うと、地元の美術工芸の作家、今まで新潟市美術館があまり集めてくる機会がなかった、そういうところに絞って購入をしてきたというのが新津美術館の特徴にはなっている。その他で言うと、郷土作家が新津美術館の場合は多いのだが、新潟市美術館とかなり重複している部分が実はある。こういったところのすみ分けというのがどうな

っていくのかということ、新潟市美術館と新津美術館の組織のあり方が今後、どうなっていくかということともかかわりが出てくると思うが、せっかく歴史があつて、収集活動の積み重ねで集まったコレクションであるので、2館で融通しあつて活用の仕方を工夫していければいいとは思っている。収集の方針は、今後また、少し議論が必要かとは考えている。

(塚田委員)

教育普及事業についてお伺いする。昨年からのコロナ禍で、もちろん展覧会事業も大打撃を受けているが、やはり対面でやることの多い教育プログラムへの影響がどこも甚大だということ認識していて、こちらではそれでも工夫してされたということであるが、どういった課題が見えたかとか、今後、しばらくこういうコロナ禍が続くような中での教育活動をどのように考えているのかをお聞きしたい。

(荒井学芸係長)

実際、昨年度は手探りというか、いわゆるワークショップなど、今までやっていたある程度、不特定多数対象のイベントが、実際、ほとんど企画もできず、いつ何時、緊急事態宣言が起こるか分からない中で、募集もできないという形で、ほとんど見合わせてしまった状況だった。ただ、学校向けのARTTRIPについては、私たちも続けたいという思いがあつたのと、学校側も実際、遠足などはかなり中止になっている中で、バスの乗降の都度、消毒するとか、生徒が隣同士にならないというような条件をクリアすることで、ご理解も頂けて実施できるということが分かったので、今年も何とかできているし、可能性はあるのだなと思いつながらやっている。実際に美術館に来て、本物を見る機会というものを、私どもとしても確保したい。その体験は何ものにも代えがたいものとして、やはり継続的に打ち出していきたいという思いがあるので、そこはぶれずにやっていきたいと思っている。

あと普及担当のほうで話しているのは、いつまでもコロナ、コロナと言っていて、何もできないのもしかだなということで、用具を使うラウンジNのきままプログラムなどもしばらくは見合わせていたのだが、だいぶ、落ち着いてきたということで、皆様にも消毒を促す形で、少しずつ再開している。ワークショップなども、例えば、ものを作るとか、お互いしゃべるといふことは、まだしづらい状況かもしれないが、少し収まってきたこともあり、例えば、それこそ会話をせずに身振りで表現するとか、間隔を取って何かする身体表現的なワークショップだったら、逆にできるのではないかということ意見を話し合っているところで、まだ実現には至っていないのだが、コロナ禍の中でできる、むしろそのときにコミュニケーションとは何なのかということを考えるようなものができたらいいと、今、そんなアイデアを温めているところである。

(佐藤委員)

今ほどの荒井学芸員からのお話で、ARTTRIPは当校も利用させていただいている。特に遠い郊外の学校は非常に有効である。この界隈のまたは美術館に近い子どもたちは、鑑賞する機会もあるかもしれないが、今回、コロナでバスを三密を防ぐために男子・女子用にそれぞれ用意していただいたりとか、無料利用させていただける点が学校としては助かった。ありがとうございます。

別の視点で質問になるが、今朝の新潟日報や先ほどの長浜部長からもお話があったとおり、新潟駅が大改装中で、来年にはいよいよ完成が近づくので、新潟日報の記事には、いろいろとインフォメーションを設けるとはあったが、JRはまだ、どのようにするかは分からないという記事だったと思う。例えば、新津美術館に来館される方が利用する交通機関はどういうものなのかと。と言うのも、今年の冬も大雪で、駐車場も大変だったのではないかとと思うが、やはり新潟の悩みは雪だと思う。東京や大阪は、交通網も発達していて、そしてふらっと立ち寄っても地下鉄のところは何々美術館は今、こういうものをやっていますという広告を見て、時間があれば寄ったりもするのだが、そのような何か新潟駅で各美術館の企画展等のインフォメーションが大きく広告されていたり、交通網でもバスとか何かセットで特典付きチケット販売等を企画していたりするならばお聞かせ願いたい。

(松沢館長)

主に新津についてご質問があったと思うので。

交通の便というのは、この新津美術館ができて以来の最大の課題で、昨年度は、コロナ禍にもかかわらず、年間通じて、この館を訪れてくださった方が12万8,000人であり、実は、開館以来、第2位のすごい数字になった。実は特殊な要因があったなと考えていて、県外から、遠くから来てくださったお客様というよりも、ほとんどこの近隣、県内が中心のお客様だったと思う。このコロナ禍によって、県外に遠出ができない。では、近場のどこへ行っただろうかというようなことで、いわゆるマイクロツーリズム、この新津美術館の周辺が、いろいろな施設が集積しているということもあって、選ばれたのかと考えている。コロナ禍だからこそ、実はこの新津美術館に人がたくさん来てくださったという部分がかかなり大きかったと考えている。

交通手段だが、大部分の方は自家用車でいらっしゃる。確かにおっしゃるとおり、最寄り駅の古津駅だが、新潟駅から新津駅までは本数が割とあるのだが、そこから先の信越線はがくんと電車の本数が少なくなってしまい、古津駅で降りても、そこからバスが何本あるかという、午前、午後、それぞれ2本ずつくらいあるかないかといったような状態。公共交通機関の便という観点からいくと、ここの立地はかなり不利な条件になってしまっているなどというところである。イヤホンを着けて、iPodで3、4曲くらい音楽を聴きながら歩いて

いると、いつの間にか美術館に着いてしまうというような距離ではあるが、なかなかそれはお天気がよくて、気候がよければということではある。その辺りはもう少しどこか、交通機関もバスの便をよくしていただくか、あるいはもっと大胆に市の中心部との間でシャトル便のようなものを走らせることができないか、ということを観光コンベンション協会の方と意見を交わしたりということはある。ただ、実現に向けての道筋というものは、まだ具体的にはできてなく、そんな意見交換をしているという段階にとどまっている。

(金山委員)

昨年、コロナ禍にもかかわらず、企画展を順調に進めていたし、入館者もそれなりにきちんと確保しているということは、大変すばらしかったなと思う。それから、年報についても2館合体して作られたということも、ずっと見せてもらったが、全く違和感がなく、しっくり収まっているということで、よかったと思う。

一つ問題提起というか、質問というか、状況についてさせていただきたいのは、こうやってこちらの両館、かなり軌道に乗って活動はされてきていると思うのだが、一方、新潟市が所管する美術館というものは、実はほかにあって、私がずっと気になっているのは、潟東である。あそこはもともと個人の美術館だということで経緯はあるのだけれども、市がきちんと所管してやっているところなので、そういった意味では、先ほど、私は、コレクション管理についていろいろテーマとして調べたり、研究したりしているものだから、そういった意味では地域の美術コレクションの棚卸しというものをやっていくということは必要だろうと思う。やはりその核になるのは、ここの美術館というか、両館なのだろうと思う。だから、これまでのずっと、今日ばかりではなくて、協議会の中では、そちらの地域、同じ市立としてやっていて、市域の美術館の他館との連携だとか、今言ったコレクションの管理については、ほとんど話題にはなっていないので、今、何して欲しいとか、あるいはどうですかということとは特に聞かないが、そちらのほうとしても、恐らく問題意識としてはお持ちなのだろうと思うのだが、今後、そういったことについては目配せしながらやっていかれることは、とても必要ではないかと思っている。これは意見ということだが、何かあったらコメントしていただければと思う。

(松沢館長)

潟東の美術館は、新津美術館以上に交通の便が悪いところであるし、いろいろと工夫をしていかないといけない美術館だなということは常日ごろ感じている。実は、西蒲区の区長が元文化政策課長だった人という縁もあり、割と私はいろいろ相談を受けることが多いのだが、20年ぶりくらいになるか、潟東の美術館に長くお勤めだった非常勤の学芸員の方が昨年度いっぱい退任されて、新しく会計年度任用職員として、学芸員を募集するというので、

その条件などについて、少し相談に乗ってほしいと言われて私はかかわった。9月に採用面接もさせていただいて、この11月1日から新しい人が着任される。そういった人が替わったというタイミングもあるが、また新たな交流・連携ができたらと考えている。

(中山会長)

それでは、この辺で、事業内容については、私もほとんど二つくらいの展覧会を除いて、さっとは必ず見ていたわけで、恐らく皆さんそういう感じではないのかと思っている。

それともう一つ、この美術館（新津美術館）というのは、市町村合併のときの遺産というか、悪い遺産である。新津市で造ったからこういうことになっている。新潟市はこうだと。本来、政令市になる際、同じような美術館であったら、今ここにあったかどうか分からない。そんなことで前の新津市という考え方の中で、我々が引っ張り込まれているわけなので、これが運営していくうえで大変ネックになるところではないかと思っている。その辺をひとつ考えてやっていただきたいと思う。

### (3) 新潟市美術館・新津美術館 次年度事業計画

資料2、パワーポイントの画像に沿って、新潟市美術館の令和4年度の事業計画について事務局より説明。

続いて、資料3、パワーポイントの画像に沿って、新津美術館の令和4年度の事業計画について事務局より説明。

続いて、新潟市美術館・新津美術館の相互利用の促進について、資料により事務局から説明。

(三保委員)

黒井健さんの原画展はすごくうれしい。新潟市出身なので、100周年のポスターの原画をお願いした。それで、ポスターは今、歴史博物館に寄附してあるので、お使いいただきたいと思う。それで実行委員会を組織するということは、実行委員会の構成は。

(松沢館長)

新潟日報とTeNYから一応、ご内諾を頂いている状態。

(三保委員)

では、役所内部というのは入っていないのか。

(松沢館長)

役所は、ここも市役所の一部だから、図書館との連携はしていこうと考えているし、今、歴史博物館のこともお聞きしたので、それも視野に入れていきたい。

(三保委員)



黒井さんには、ほんぼーと中央図書館のこどもとしょかんの名誉館長をやっていただいて、ぜひ中央図書館とコラボしていただけると、向こうでも本を並べて、こちらも本を並べたりとか、何かできるかと。5年前に図書館の記念で原画展をやっていただいて、多分、美術館でやるとすごくたくさん来られると思う。すばらしい絵なので、ぜひとも図書館とコラボしていただきたいと思う。よろしくお願ひしたい。

(松沢館長)

実は今、とても驚いているのだが、そうですか、100周年のポスターをご依頼なされた。

(三保委員)

東京まで、データができれば見においでと言われて行った。

(松沢館長)

それは嬉しい奇遇でございました。

実は近々、中央図書館に連絡を取って、市立の図書館がたくさんあるので、そういったところもうまく巻き込んでいくような動きにできたらいいなと考えていた。貴重な情報をいただき、ありがとうございます。

(島委員)

両館とも、お子さんたちがたくさん来てくれそうな企画が次年度は盛りだくさんなのかと思った。新潟市美術館の新潟映像祭というものの内容がよく分からない。これについて何か、映像といってもいろいろな映像があるので。

(前山館長)

そもそもの発想は、ここを空けておくのをやめようよという意図。かなり長い期間、空いてしまうので、美術館は何かして開いているという状態を作ろうと。ただし、予算はほとんど掛けられないという状況の中で、収蔵品の映像で、新潟をテーマにした映像もあるので、そういったようなものを使う。あとアーティスト・イン・レジデンスでゆいぼーとに来ていた作家が、新潟で制作した映像などを貸してもらおうと考えていて、展示室内に固定スクリーンを下げおけば、そんなに予算を掛けずに回していけるかと。看視の賃金もかからないかもしれないというようなことを考えている。作家にこれから声をかけて出品してもらうということになるが、何か新潟というところでひとつ枠組みみたいなものを行ったほうが、何でも映像だからいいというようにするよりは、実りのあるものになるのではないかと考えている。ただ、まだあまり具体化してはいないので、これから作っていくような感じである。

(捧委員)

両館とも見たいなというものがいくつかあり、ぜひ足を運びたいと思った。今日、初めて参加して、今までの経緯などよく分からなかったのだが、二つの美術館が連携してやってい

こうという方向に進んでいることをお伺いして、本当によかったなと思った。ここに出席する前から、新潟市立の美術館が二つあるので、どちらでやっている美術展なのかということを考える。例えば、「るろうに剣心」は新津だろうとか、そういうイメージが今まであった。この両方の企画もどちらでやるのだろうと、そこらしきみたいな形のものが両館に混在しているので、私も美術館としての新津美術館はこういう美術館、新潟市美術館はこういう美術館という特徴をそのまま出していてもいいのではないかと、ずっと思っていた。何々ならここという特徴があると、あれはあちらだなとすぐ分かって、ここに行けば自分の好きなものが見られるなということが良いと感じる。私も東京の美術館へ行ったりするときも、ここは私の好きな美術館とか、現代アートはここでやっているからここに行きたいとか、ここはこういうところということで、そこに行けば必ず自分の好きなものが見られることは良い。人口が新潟はそんなに多くないので東京のようなわけにはいかないと思うのだが。お聞きしたいことは、この企画を立てるときは、どのようにして、お互いに連携しながら会議したりしているのか、それとも館独自でやっているのかとか、その点だけお聞きしたい。

(松沢館長)

昨年の春に小さな組織改正があり、それまで新潟市美術館と新津美術館はそれぞれ課相当の機関という位置づけだったが、昨年の春から新津美術館は新潟市美術館の補助機関になった。館が小さくなるとか、活動が縮小されるという意味ではないが、2館の連携・一体化を更に進めるための組織改正であり、今は月に2回程度、会議を一緒に開催し、情報交換を密にしている。お互いの館の近況や、次年度以降の企画に関する情報を出し合い、以前はその辺りが必ずしも共有がうまくいかないこともあったが、今は一緒に話し合いながら進めている。

(佐藤委員)

新潟市美術館の宮城県美術館所蔵絵本原画の世界展だが、先ほど拝見したところ「ぐりとぐら」とか、「おおきなかぶ」とか、幼稚園、保育園、小学生が非常によろこびそうな原画展だと思った。タイトルの、この後、実行委員会で様々CMが入るのであろうが、ちょうどゴールデンウィークにも差しかかることから、ターゲットの来館者は恐らく親子連れが多くなることが予想されるが、学校が次年度の年間行事を決めるのが、大体、1月、2月くらい。学校が、団体で見たいと言っても、この4月、5月は、運動会があったり、新体制作りで忙しくしたりしているので、恐らく学校が引率してくることは少し難しい時期である。家族などをターゲットにするならば、早めに保育園、幼稚園や学校へ分かりやすいチラシが配られると、家族連れで行こうかなとか、2館の共通券の割引などあるならば、大人も割引があるなということでお子さんを連れて行けると思うので、何か企画していただけたらと思う。

又、新津美術館の田中達也展だが、たしか3年ほど前に新潟三越がまだあった時に展示されていて、先ほどの画像を見ても同じ作品かなというものもあったように見えたが、MINIATURE LIFE展2ということで何か違いがあるのか、この間、鑑賞した方々から同じ作品と思われないような何か新しさがあるといいかと思った。

(荒井学芸係長)

新潟市美術館の絵本原画のほうの話から。学校での行事計画のタイミングにはなかなか情報公開が難しいかと思うが、実行委員会を組んで開催する予定であるため、何とか少し早出しができるか、検討はぜひしてみたいと思う。前売りは、いずれにせよ、4月に先だって始まることと思うので、せめてそこで届いてくれればいいかと思う。

昨年度行ったトーマス展でも、市内の全幼稚園、保育園の園児に割引券付のぬりえを配布しており、割と好評であったので、例えばそういった方法を実行委員会の相手方ともアイデアを出して、仕掛けていきたいと思っている。

(松沢館長)

田中達也さんのMINIATURE LIFE展だが、3年前に新潟三越で開催され、3万4,000人入り、大好評だったということ。MINIATURE LIFE展1に当たるものが全国各地の百貨店会場を中心に回したところ、やはり大変好評だということもあって、ではもう少しスケールアップをして、美術館で回してみようかということになったのが、この展2と伺っている。このため、重なる部分もあるようだが、別立ての展示になっていて、より楽しめる仕掛けや立体作品も豊富にあるということで、来場していただいた方に写真を撮影していただいて、インスタグラム等でそれをアップしていただくような仕掛けなども考えている。

(田中委員)

まず企画展のラインナップだが、似たものが並んだという印象を受けた。絵本関係が多いのかと。前回も似たような指摘をしたと思うが、たしか日本画が続いたかなとか、昨年度は、私は楽しかったが、スカンジナビアが多かったかなとか、多分、巡回展を受ける都合上、こちらで決められないということが一番の理由だと思う。

教育普及に関してだが、両館ともコロナにおいてもいろいろ工夫してやっていることがすごく伝わってきている。これも私の個人的な持論だが、美術館は、美術の授業として学校教育とかかわるだけではなく、社会や国語など、別の教科の先生との連携をもう少し図れるといいのかと思う。特に来年度は、絵本があるということなので、先ほど、三保委員もおっしゃっていたが、図書館、あるいは国語などもできるのかと。そうやって美術館のほうから学校現場のほうに、美術だけではなくて、国語の先生、社会の先生、理科の先生とアクセスし

ないと、多分学校現場は気づかないと思う。美術館は美術だけのものではない。もっと身近に楽しめる場所なのだとすることを伝えるための、他教科のほうにもアクセスしてみたいかかと思っている。

(前山館長)

私が前にいた美術館は、教育委員会だった。ここに来て市長部局なので、教育現場と遠い感じがしている。教育委員会にあるとやはり教育センターなどに何か頼むと、ぱっと広がっていくし、学校の先生が出張で美術館に来ることができたりとか、非常に融通が利くのだが、市長部局だとその辺がもどかしいという感じがしている。

それから絵本が多い。これは、結果的にこうなってしまったというところ。特に新潟市美術館は、「こどものとも」の展覧会の期間は、ほかの展覧会をやりたかった。ただ、予算面や実行委員会を組んでくれる相手がいなかったり、いろいろな問題があつて、断念せざるを得なかった。巡回展の場合は、いろいろな情報が入ってきて、なおかつここが空いているというところに名乗りを上げるというタイミングが非常に重要で、金に糸目をつけずに展覧会ができる美術館ならいいのだが、そうではないため、身の丈に合ったものをちょうどいい時期に手を挙げるということを考えていった結果、今回はこどものともが入ってきたので、両館とも絵本が多くなった状況になっている。先ほども少し話したが、両館のこういう方向性というものを出したいのはやまやまなのだが、なかなか現実だとそのようにうまくいかない。

(荒井学芸係長)

引き続き、他教科の先生方へのアプローチについて情報提供させていただく。ARTRIPの事業の募集開始が大体2月、3月の校長会にさせていただき、そのときには、どんな教科でもウェルカムということは強調してお伝えしているが、実際に興味持たれるのは、どうしても図工、美術の先生が多いということが実情。ただ、小学校の応募の中には、特に図工専科ではなくオールマイティにされているので、本当は国語だという先生が担当して下さったこともある。例えば、オノマトペを使って鑑賞してみようとか、少し言葉のほうに寄せたアプローチも可能である。又、ARTRIPの例で言うと、徳川名宝展のときには、ばりばりの高校の社会の先生がかかわって下さったということもあって、細々とした活動だが、逆にほかの専門教科から見たときに、より美術がおもしろくなるということを経験をさせていただく機会と思っている。ARTRIPも何年か継続してやってきているので、そういう特徴的な事例を報告書にまとめて、また学校現場のほうにフィードバックしたいと考えており、美術館はこういう使い方もあったのかというような提案ができればと検討しているところ。

この他、さらに裾野を広げる方策として、お手元のチラシの中にあるN I I G A T Aアー

トリンクについてだが、これは新潟市美術館、新津美術館のほかに県の長岡市にある県立近代美術館と新潟市内の万代島美術館の4館で構成している任意団体で、4館で会合を持ちながら、年に一回、スケジュールの共有をし、共通のチラシを発行している。単にカレンダーを作るだけでなく、4館の情報交換も年に数回行っており、今年は、初めて4館共通の課題として、学校現場にいかに関わりアプローチするかということで、学校の先生を対象とした対話型鑑賞の研修会を開催した。その際には、県の美術館が教育委員会のもとにあるということで、そこから一斉に全県に情報を流していただき、コロナ禍ではあったが、定員いっぱい40名ほどの先生方の参加を頂いた。その中には特別支援の先生や、国語が専門の先生もおられて、美術館をどう使ったらいいのかということで、活発な議論をさせていただくことができた。こういったところからまた美術館に、今度は生徒を連れていきたいと思う先生方と一緒に連携を深めていければと思っている。この研修会は、今年、試験的に始めたが、大変好評であったため、来年度もやってみたいと4館で話しているところであり、またこの結果についてもご報告していきたいと考えている。

(塚田委員)

両館のラインナップを見て、自主企画のところを興味深く見ていた。まず新潟市美術館の映像祭は私も気になって、質問をしようと思っていたが、島委員が質問してくださったので、事情はすごくよく分かるし、なるほどと思った。けれども、そういうなるべく閉めておきたくないのだというすき間企画というものは、意外とその後もおもしろく展開したりするというようなことがあると思う。予算をそんなに掛けなくていいということもけっこう重要だなと。特に令和4年度はともかく、令和5年度、令和6年度の予算が厳しくなることはこの自治体も同じだと思うので、意外とこれはいけるのではないかとか、シリーズになるのではないかとか、感じていた。

映像は、ワークショップなどがすごく強力におもしろい分野だと思っている。特に若い子たち、中学生や高校生に映像を作らせるということはすごく面白いと思うので、それも作家さんにレジデンスさせるよりは安い予算でできると思うので、そんなこともできたら楽しいなと思った。

新津美術館の弥生の丘展示館との連携も、近隣の施設とうまく組んでいく非常にまっとうな試みでしょうし、特にコロナ以後は、こういうこの辺の生活みたいな、そういうアプローチが、ものすごくお客様の心に響きやすくなっていると思うので、少し前だったら地味と思われたかもしれない、こういう企画も意外といけるのではないかと感じて聞いていた。連携されるのは初めてのようだが、いつごろから話があったものか。

(松沢館長)

弥生の丘展示館は、歴史文化課が所管している施設だが、実は歴史文化課の課長補佐が私と高校の同期で、親交があったことから、そこから話が始まり、お互いの館が持っているものを活かした連携をできたらいいなという話になったもの。

(塚田委員)

そういうオーガニックな始まり方は意外とよかったりすることも経験的に感じるので、これは楽しみだなと思った。

(中山会長)

今の弥生の丘だが、私はずっと前から見ていて、なぜ二つが連携できないのかと思っていた。ただ、美術と考古学のコラボというものはなかなか面倒なもの。私達は「ヒスイ文化を読む」という題でもう2回くらいやっている。この前、コロナで中断してしまったが、ヒスイなどは皆が懂れる宝石。また向こうでは奴奈川姫というものがあるので、そういうものと結びつけてうまくできるのだが、ではどうやったらいいかとしばらく考えていた。ただ、日本人は縄文・弥生、江戸時代、これにみんな興味があるため、やり易い。そこで何か面白いものできないかと思う。まだ、この企画は完全に詰まっていないでしょう。

(松沢館長)

これからである。

(中山会長)

だからそのコラボがどのようにできるかということは非常に興味がある。

(金山委員)

展覧会については個別に批評するような能力を持ち合わせていないので、なるほどなと思った。ただ、やはり学芸員がきちんと作品についての調査研究をして、その成果として展覧会に反映できるというようなものは、ぜひそこはきちんと確保していただきたいと思う。それをしないと、やはり学芸力がどんどん衰えて、イベント屋になりがちになってしまうので、そのところはよろしく願います。

それからもう一つ、事業ということで、スライドでの説明はなかったが、資料の購入について、去年はコロナ禍ということで選定委員会が行われなかったということだが、今後、資料購入は、毎年、基本的には定期的に進めていく理解でよろしいか。

(松沢館長)

実は今、新潟市の財政がかなり逼迫しており、一般会計での購入予算が凍結されている。一般会計とは別に単年度予算から切り離された美術資料取得基金というものがあり、今、現金が基金の中に4,000万円ほどあるのだが、その執行にあたっては、現状の市役所内で理解を得るにはよほどの理由を用意しなければいけない。美術作品の購入については、ここしば

らくは我慢の期間かな、という状況。

(金山委員)

そうすると資料の収集というのは、それ以外の手段を講じて対応していくということでしょうか。

(松沢館長)

主には寄贈か管理換えとなる。

(捧委員)

企画については、新潟市美術館では、マン・レイなどは見たいと思ったり、リアルのゆくとか行ってみようかと思っている。

新津美術館は、今年の企画は1個逃しただけで、ほぼ見に来た。また、この館がすごくきれいなので、いろいろな企画、美術展だけではなくて、それに合わせた関連のものをすると、すごく映える会場だなと思うし、駐車場も広いので、この館のメリットだと思う。

新潟市のほうは古いし、全体に照明などのせいか、暗い感じがしてしまうのだが、企画の内容はすごく濃いので、実のあるというか、これは見ておかななくてはいけない展覧会だなというものには足を運んで見たりしている。

新潟市民とのかかわりとか、アーティストの展覧会を別な会場でやっていると思うのだが、作家たちは会場探しをされていて、うちの美術館も展覧会をさせてくださいという人がときどきいらっしゃるのだが、やはりなかなかうちの館の方針と違うものはできず、ある程度、作家のレベルも保ちたいと思ったりしているのだが、新潟市立なので、新潟市の方や作家の展覧会なども開催すると喜ぶのではないかな。けっこううち（雪梁舎美術館）や知足美術館などにたくさん来られる方は多いと思うのだが。

(島委員)

あまり本筋ではないかもしれないが、新潟市美術館にあるベーグルのカフェは健在で頑張っているか。いつも、委員会のためにそこへ寄ってお茶を飲んだりして、ベーグルをお土産に買っていったりしていたので、今、美術館のカフェというのはけっこう不況で、コロナのこともあって閉まっているお店が多かったりして、経営がうまくいかなくなって撤退ということもけっこう聞いているので、いろいろな形で支援を。私の今いる国際美術館でも営業時間を調整したりして、光熱費を少し減らしたり、そういういろいろな形で協力しながら継続してもらっているところがあるので、健在であればありがたいと思う。

(三保委員)

私が一番気になっていることは、市役所本館の裏にあるブルデルのペネロープ像。前に職員がたくさんいたときは、市民の方も証明書を取りに来たりして賑わいがあったのだが、

彼女が寂しそう。美術館のほうで、そういう存在を美術館とコラボしてウォークラリーではないが、美術ラリーみたいにはできないか。多分、建物に今、美術的な要素を取り入れるということが、あれからずっとあると思う。何か問題があるのか。

(松沢館長)

ブルデルは、中央区役所が移転した後、市役所本庁を訪れる市民がめっきり減ったせいか、顧みられる機会が少なくなったな、ということは私も感じていた。実は、あの像は、第四銀行が今の市役所の本庁が竣工するのに合わせて、市政 100 周年のお祝いということで寄贈してくださったもの。その後、新潟市美術館に、私も担当して寄託の受け入れをしたのだが、第四銀行から美術作品を 35 点程寄託を受けて、それをお披露目の機会が数年前にあった。そのときにあわせて第四銀行から寄贈されたブルデルが市役所の本庁にありますよ、ということを紹介させていただくなどしたが、また関心を持っていただくための仕掛けを何か考えたほうがいいのかもわからない。

(前山館長)

私もあれは気になっていて、修復家が来たときに見てもらった。やはり状態としてはよくない。修復したほうがいいくらいという言葉ももらった。行政の人たちは野外彫刻をきちんとメンテナンスしてあげないといけないという意識が割と少ない。特に木の下は葉緑素がブロンズについてしまうので、年に何回かはきちんと洗浄しないと本当はいけないのだが、そういう様子もないので、指摘したことはある。

(三保委員)

南区に千野茂の像がけっこうたくさんあり、原型みたいなものも寄贈を受けていると思うのだが。長井亮之の絵もある。

そういうものが目の目を見ないで隠れているのはすごくもったいない感じがするので、市民がもう少しそれを誇りにしてもいいのではないかということで、ぜひともお力をお願いする。

(中山会長)

ありがとうございました。

この後の進行は、事務局にお任せします。

## 5 閉会挨拶

(松沢館長)

いただいた貴重なご意見を基に、新潟市美術館と新津美術館をますますいい形で機能させていくべく、努めていきたいと思う。本日は、どうもありがとうございました。